家庭教育啓発情報誌

きずな

第 71号　　令和8年2月

発 行　綾部市教育委員会教育部社会教育課

電 話　0773−42−4326

E-mail　shakaikyoiku@city.ayabe.lg.jp

次代を担う 子どもたちに育みたい「生きる力」

なぜ今、「生きる力」が求められるのでしょうか。

それは21世紀になり、時代の変化がますます加速する中で、今の子どもたちは保護者世代が育ったころとは違う世界を生きているからです。先行き不透明な現代社会では、保護者世代の常識は通用しないことがあります。自分らしく幸せに生き抜くためには、変化に柔軟に適応しながら自分らしく生きる力、そして、困難があってもそのときのベストな道を見つけて乗り越える力「非認知能力」が必要になります。

「非認知能力」を育む3拍子が家庭には揃っています

非認知能力を伸ばすのに家庭は最も効果的な場所

信頼する保護者の存在

信頼しているからこそお子さんは、真似したり、お手本にしたりします。

継続性がある

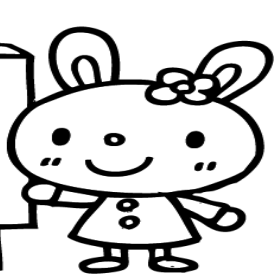
非認知能力を育むには続けることが大切です。家庭では、日々の積み重ねが自然に育まれていきます。

スピードが速い

保護者が実践しようと思えば、すぐに取り組むことができます。

今回は、非認知能力を育むために効果が高い「保護者の言葉がけ」を紹介します。

「非認知能力」を伸ばす
保護者の言葉がけのコツ



その１

言葉で伝えるときの基本は
「肯定・質問・論理」

しつけやルールを徹底させようとする場合、つい感情的になってしまうこともあります。そんな時こそ、感情的に命令や指示、叱責をするのではなく、理由や根拠が分かるように「論理的」に伝えることが大切です。

話すときは「肯定的」な言葉かけを心がけましょう。ちょっと変わった意見だと感じても、まずは肯定的に聞きましょう。その後「どうしてそう思うの？」と、お子さんの思考力を育むために「質問」しましょう。

その２

聞く：話すは
「80：20」の割合で

「話を聞いてもらえる」それだけでお子さんは安心します。お子さんは、自分の存在と価値を肯定してもらえて「自分は大切にされている」「ここに居ていいんだ」と感じます。

保護者は、「聞く 80％、話す 20％」の割合を心がけ、お子さんの話をたくさん聞いてあげましょう。

子どもは無限の能力や可能性をもっています。これを最大限伸ばしてあげたいと誰もが思うのではないでしょうか。その時に大切になるのが非認知能力です。そして、最も子どもの非認知能力を育める場所が家庭だと言われています。ぜひ、今日から肯定的な向き合い方や言葉かけを生活の中に取り入れてみられてはいかがでしょう。

参考文献　非認知能力を伸ばすコツ　中山芳一